

「場」と「支援」探究会 学習会 (全3回)

～いろいろな「場」と「支援」のありようを体感する～

「良い支援」って何だろう？「人がいきいきする場」とは？

対人支援、市民セクターで働きながら、そもそも「支援」って何だろうを問い合わせている人たち、人間理解を深めたい人たちが集まって共に学ぶ体験学習会。

(全3回・各回ごとの参加も可)



ここにちは小椋です。私自身がこれまで市民活動や福祉分野にたずさわってきた中で感じてきた良い支援とは何か？という疑問。そして、これから共に生きる場(地域・社会)や、共に働く場をつくりていく上で、どんな人間理解や関係が必要なのかを、皆さんと共に体感を通して学びたいと考え、この学習会を開催することにしました。講師には、被災地など様々なところで「場」をつくりてきた、千葉県松戸市を拠点に活動している谷口さんをお招きします。参加者の皆さんと共に学べることを楽しみにしております。ぜひ、ご参加お待ちしております。

	日時	テーマ	扱う内容	会場
第1回	2018年 12/2(日) 13:30~16:30	【座学】 自立・自己実現を支える支援 VS 共に生きることを支える場	・自立・自己実現を支える構造、いのちが生きる場を創るということ、の違い。 ・体験学習（第2 & 第3回）で行うエクササイズの紹介	「太陽とオリーブ」 仙台市若林区新寺 2-3-1 ※仙台駅東口 徒歩10分
第2回	2019年 2/16(土) 10:00~13:00	【体験学習】 身体に聴く 身体で聴き合う	・身体が情報の宝庫であること、「聴く」ということ、こころと身体のつながりを体感する。	未定 ※お申込者に事前にお知らせします
第3回	2019年 2/16(土) 14:00~17:00	【体験学習】 関係性を身体で感じる	・場（フィールド）とは何か？ ・スロームーブメントでアイスブレイク。関係性に織り込まれた自分を感じる。（ファミリー・コンステレーションの体験）	未定 ※お申込者に事前にお知らせします

受講料／各回 3,000円 ※当日徴収

お申込み／電話・メールまたは裏面のFAX用紙にて、お名前、参加する回、電話番号をご連絡下さい

※第2回と第3回は最低催行人数5名以上での開催となります。ご了承下さい（事前に、お申込者へお知らせします）

講師 谷口 起代 プロフィール

ソーシャルワーカー＆心理療法家。精神保健福祉士。公衆衛生学修士。社会デザイン学博士。

共創ラボ主宰・立教大学社会デザイン研究所 研究員。

1968年日本生まれ。1990年から7年半、カナダのトロント市で生活。日系人コミュニティとの出逢いからマイノリティ問題に関わり始める。帰国後、社会福祉法人共生福祉会（わっぽの会）の、障害のある人とない人の共同体づくり運動に参加。2002年独立。以降、社会問題に深く関わりながら個々の心に寄り添う、ソーシャルワークと心理療法の統合を基軸に、分野横断的な独自の活動スタイルで実践を重ねてきた。主な活動領域は、精神障害者のアウトリーチ型相談支援、心理カウンセリング、福祉・医療・心理領域の翻訳・通訳、ストレスマネージメント講座の開催、セルフヘルプグループの世話人、「場」づくり等。翻訳書に、「いのちの営み、ありのままに認めて：ファミリー・コンステレーション創始者バート・ヘリンガーの脱サイコセラピー論」バート・ヘリンガー著 2016年6月 東京創作出版がある。（谷口 起代 ホームページ <https://www.kiyotani.net/>）



主催・お問合せ先・申込み先／「場」と「支援」探求会

電話 070-5328-8884、FAX 022-378-3768

メール batoshien@gmail.com (担当 小椋 亘)

参考までに…

たにぐち きよ
谷口 起代さんてこんな人



『谷口起代の研究の概要と背景にある思い』

理不尽なことが起こっていても、それをどうすることもできなかったり、または、身近な人がそのことで苦しんでいたり、自分自身がその苦しさのまっただ中に置かれたり。生きていれば、そのようなことに遭遇することは避けられないことかもしれません。でも、私が研究活動を行っている背景には、そんな時に「そういうものだよ」と冷めた構えで通り過ぎてしまわずに、どのような理不尽ことが起ころうが、それが社会の構造的な問題に由来していて一人の力ではどうすることもできないことであろうが、または、生まれながらに持っている病や障害や貧困といったことがあろうが、この世に生を受けた一人ひとりが尊厳ある生を全うすることができる道を見いだしたいという思いがあります。

特に、私の関心は、「障害」「病」「社会的不適応」「死」といった近現代において周縁化してきた事柄、ステigmaとして扱われてきた事柄との関係を取り戻すことです。そうすることで、どんな事情があろうとも、そのままに、誰もが「おのずから」のままに生きられる社会が創られていく可能性が拡がるのではないかと思っています。

そんな思いを背景に持ちながら、「人が躍動する時」に着目して研究をしています。人は、いつ、どんな条件下で、動き出すのか。滞った状態に風穴が開くのはどんな時か。これまで見いだしてきたいくつかの原理としては、人は一人では動き出すことはほとんどないのだということ。意志の力は普段信じられているほどに、強くはないということ。ずっと『停滞』していた状態から『動き』が生まれる時、その背景には、それを生み出す関係があるということ。

だから、私の研究では、関係性が要となる「共創」がキーワードです。「共創」から生まれる「躍動」に着目し、躍動の源泉を、そして、躍動のメカニズムや条件を、可視化することや言語化する。それと同時に、人々が躍動する状態を生み出すしくみやシステムを構築するにはどうしたらよいかを、私自身のフリーランスのソーシャルワーカーとしての実践を検証しながら、探究しています。

【現在取り組んでいる具体的なテーマ】

- ・コミュニティづくりにおけるソーシャルワークと心理療法の統合
- ・西洋近代的パラダイムを補完しつつ超える、「いのちと暮らしを守るソーシャルワーク」の理論構築
- ・「共創」の場のダイナミズムの解明
- ・現代の私たちの生活の実感覚に合う「祈り」や「信仰」のカタチの言語化



FAX お申込み用紙 022-378-3768 (「場」と「支援」探求会 小椋 宛)

お名前（ふりがな）	参加する回	電話番号	メールアドレス	備考
	第1回・第2回・第3回			
	第1回・第2回・第3回			